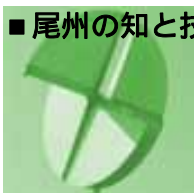


■尾州の知と技 「FDC匠ネットワーク」メンバー紹介



FDC匠ネットワークメンバーに聞く

——質問します——

質問1：職歴は？ 質問2：主に携わった業務は？ 質問3：尾州産地の現状認識は？

質問4：貴方が伝承しているもの（こと）は？ 質問5：その伝承に必要なもの（こと）は？

質問6：JB東京展での訴求ポイントは？



海外を含む他産地との交流が大切

レディス生地匠・辻岡三彦さん（所属・エムティ・アート）

質問1：昭和34年 木玉毛織入社 平成11年 ファッションパーキー入社
平成15年 エムティ・アート設立、現在に至る

質問2：織物企画、設計、販売

質問3：「このままではいけない」と思いながら、新しい手が具体的に打たれていない。地域産業を後世にどう残していくのか、行政を含めて“本気”が伝わってこない。生産志向の体質と物創り認識のギャップがそこにある。

質問4：1）産地の特色として素材の高級化（高品質のさらなる高度化）

2）他産地との交流（原料＝ペルー、イタリア、加工生産＝有松、奄美、足利、横浜、インド）

3）技術面では高品質原料を生かし、設備面は軽量化を志向している。

質問5：人材の育成（尾西は高品質産地であるというイメージを消してはいけない。そのためには思い切った行政の配慮が必要になっている。後継者作り、特にソフトの絡む人材の育成が必要だと思う。すなわち、産地が良くなると、各企業は良くなると）

質問6：立体感、表面効果を求めながら、できるだけ軽く仕上げ、アイテムを広げることを目指した。



ファッションの視点での物作りを

ニット生地匠・武仲政明さん（所属・東陽ニット企画）

質問1：昭和34年 ミヤガワニット入社 37年 丸編ニット編立

39年 東レと連携して米国向け合繊ニット企画

40年 テキスタイル事業部長、企画、生産、販売担当

50年 小田商事取締役兼ニット部長

平成 3年 東陽ニット企画設立、現在に至る。

質問2：丸編ニットの生産、企画。

質問3：ウールを主体とした生産からの発想が多く、ファッションからの発想で売れる物作りの点では欠けるのではないか。

質問4：丸編ニットの生産技術と企画。

質問5：人材の育成。

質問6：新素材とウールの組み合わせによる新しい風合い。